

渋川市議会議員 安カ川信之様【視察調査報告書】

会派名	笑顔みらい渋川
派遣員名	1名 中澤功史
日程	令和5年7月3日(月)
目的	GIGAスクール構想のもと、渋川南小学校のICT活用状況及び吉岡町立明治小学校の先進的な取り組みについて視察し、本市の小中学校におけるICT活用の参考とする
視察先	渋川南小学校及び吉岡町立明治小学校
視察内容及び概要	<p>(1) 渋川南小学校のICT活用状況</p> <p>ICTの活用状況、具体的には電子黒板、パソコンやタブレットなどのデジタル機器の導入、インターネットを介した学習支援ツールの活用などを行う教育の状況の確認。</p> <p>(2) 吉岡町立明治小学校の先進的な取り組み</p> <p>吉岡町学校ICT環境整備推進計画「HiBALIプラン」に基づく教育のデジタル化に積極的に取り組む明治小学校のICT教育の状況を確認。</p>
員所感 (意見・課題・本市への反映など)	<p>(1) 渋川南小学校の状況</p> <p>①朝のHR：6年生の「学校保健委員会」の発表準備 (Googleスライドを使用・共有)</p> <p>①1時間目：6年生算数</p> <p>教科書の問いを大型テレビに投影。</p> <p>考え方をオクリンクを使用し、先生がシートを児童に送る→児童がシート入力後に返送する→テレビに投影されることで、提出した児童がわかる・他の児童の考えの筋道がわかる。(ライブモニタリングにより、記入している状況が反映される)</p> <p>②2時間目：4年生算数</p> <p>先生がオクリンクで説明を送る→紙に書き写真を撮る→掲示板に送る(タブレットのタッチペンの反応が悪いため)</p> <p>3年生算数：まとめの際にドリルパークを使用。</p> <p>※タブレット導入で特支の児童も協力学級で授業を受けることが多くなった。</p> <p>③3時間目：4年生算数</p> <p>書画カメラを使用し先生が説明→班に分かれタブレットで考え方を撮影しオクリンクで送信</p>

各班の動画で考え方を見ているときに集中することができた（児童の振り返り）

④4時間目5年国語

観察のまとめ方の授業

Googleドキュメントに入力してある事項「調べたきっかけ」「調べ方」「調べて分かったこと」「まとめ」について、児童がタブレットで撮影、インターネット検索等で調べたことをドキュメントに入力する。

(2) 明治小学校の状況

※吉岡町議の全員協議会「明治小学校タブレット授業視察について」にオブザーバーとして参加させていただいた。5時間目の授業のみの視察であった。

- ・1年生国語 Google Jamboardを活用した、児童によるひらがな50音表の作成
- ・2年生国語 Googleスライドを活用し写真を大型モニターに写しての児童による発表
Google Jamboardを活用した児童による感想の交流
- ・3年生算数 ベネッセミライシードオクリンクを活用した、児童によるわり算の問題作りとまとめ
- ・4年生社会：ベネッセミライシードムーブノートを活用した児童間の意見交流
- ・5年生図工：ベネッセミライシードムーブノートを活用した児童間の意見交流
- ・6年生総合：Googleスライドを活用した、児童による5年生に向けた修学旅行プレゼンテーションの練習

※導入機器

- ・1～3年生はタブレット型端末、4～6年生はPC型端末を導入
- ・ベネッセ ミライシード
- ・ベネッセ まるぐランド（1年、2年、わかどり学級）
- ・リクルート スタディサポート
- ・内田洋行 Gライフログ（健康観察）

(3) 渋川南小学校と明治小学校の取り組みの差異

①健康観察について

吉岡町は小学校は800人以上（各学年4～5クラス）、中学校は700人の大規模校であるのに対し、渋川市は古巻小学校でも3クラス、南小学校は1クラスという差異がある。

そのため、吉岡町では出欠、体温、様子といった膨大な集計作業を短時間で終わらせないとならないためデジタルデータで提出させる必要性が高いが、渋川市は紙提出でも集計作業の手間がかからないためデジタルデータで提出させる必要が少ない。

また、吉岡町でもデジタル化による混乱があったようであるが、その混乱を避けるために渋川市ではあえて紙提出をさせていたとのこと。

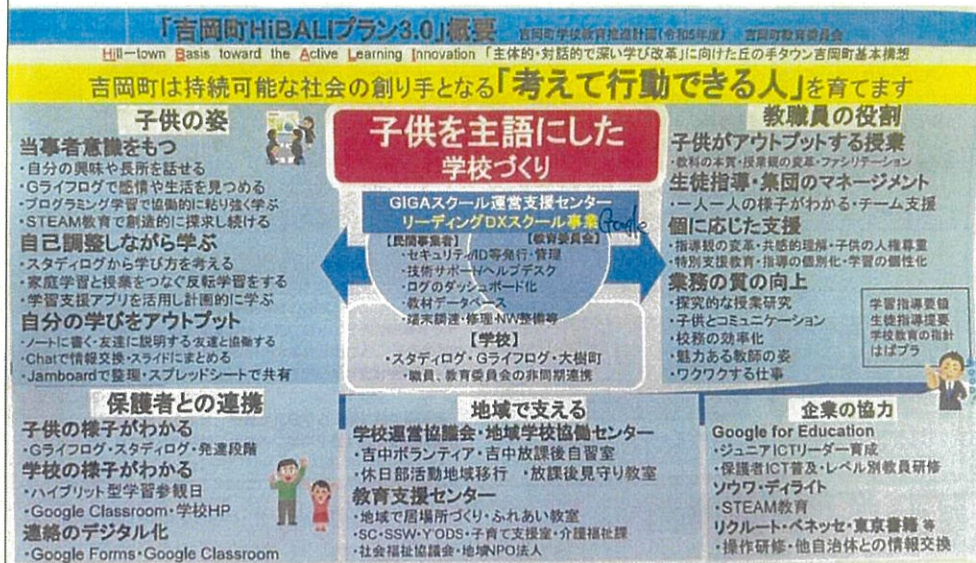
②授業等の利用状況

吉岡町では、コロナ禍でいち早くタブレット導入をし、導入当初から自宅への持ち帰りをさせ、授業等での使用を積極的に行ってきた。そのため、導入当初は自宅での使用状況や使用方法について問題が多かったと聞いているが、子どもと父兄もタブレット使用になれたころには問題も解消し、さらに教諭の経験・ノウハウも蓄積し、指導内容によってデジタルと紙どちらを使用すれば学習効果が高いかが判断できるようになっているとのこと。

一方で、渋川市では吉岡町ほど持ち帰らせていないようであるから、家庭での使用についての問題が残っていると思われる。また、教諭の経験・ノウハウについても吉岡町ほどのものが蓄積されているかどうかは未知数である。

③吉岡町の取り組み

吉岡町では、当初から、吉岡町学校ICT環境整備推進計画「HiBALIプラン」を作成・実施し、改訂を進めて令和5年度はプラン3.0を実施している。



近い将来AIにとって代わられる職業が多いと叫ばれているなか、「考えて行動できる人」こそが、AIに代わられない職業に就くことができると考える。

保護者、地域、企業そして教職員が子どもを主語にした学校づくりを進めていくプランを作成・実施している取り組みを、ぜひ渋川市でも渋川にマッチした形で取り入れるべきと考える。

以上